

議 長  
確認印

予算決算常任委員会会議録

1、開会の日時 閉 会	平成 28 年 12 月 5 日 10 : 00 平成 28 年 12 月 5 日 14 : 22
2、場 所	議場
3、出席した委員	小林達信、割貝寿一、七宮広樹、下重義人、吉田広明、青砥與藏、高縁 光、吉田克則、鈴木 茂、鈴木安次、小峰由久、藤田一男、鈴木孝則
4、欠席した委員	なし
5、出席を要求した者	
6、職務のため出席した者	議長 大縄武夫 議会事務局長、書記
7、説明員	町長、総務課長、町民課長、健康福祉課長、まち振興課長、まち整備課長、生活環境課長、総務課長補佐、財政係長 教育長、学校教育課長、生涯学習課長 (農委は欠)
8、付議事件	第 1 埴町振興計画 (実施計画) 案について
9、議事の経過	<p>副委員長 (割貝寿一委員) 開会 委員長 (小林達信委員) あいさつ 町長 宮田秀利 あいさつ</p> <p>第 1 埴町振興計画 (実施計画) 案について 委員長 : (1) 財政状況及び財政見通しについて説明を求める。総務課長 (総務課長が説明) 委員長 : 質疑はあるか。 吉田 (克) 委員 : 28 年から 29 年の国県支出金が大きく減少しているが。 総務課長 : 森林加速化交付金が減少した。29 年は今のところ見込みがない。最低限の計上になっているとご理解いただきたい。 委員長 : ほかになければ次に移る。 (2) 概算事業計画について説明を求める。 (所管課の長が資料の説明) 委員長 : 質疑はあるか。 鈴木 (茂) 委員 : こども園については末広町にしたいと答弁していたがなぜ駅前にまた戻ったのか。8 億円の計画だったが 12 億円になっているなぜか。 町長 : 末広町は国道の右折レーンの設置が見込まれ、時間とお金がかかる。急いでこども園は作りたいので担当と協議し変更した。玉川、古殿の施設を視察したがこのぐ</p>

らいはかかってしまうようだ。できるだけ圧縮したいと考えている。

鈴木（茂）委員：補助金はあてにしていないのか。

健康福祉課長：まだ計画の段階である。他施設の視察をした段階。また、当初こども園 2,500 m<sup>2</sup>、多世代交流センター1,000 m<sup>2</sup>で計画したが、子ども園と子育て支援の部分を検討していこうと、検討委員会を立ち上げどのような形になるか検討する。3,500 m<sup>2</sup> (1,060 坪) としても他の例から坪単価は約 100 万円と見込み約 10 億円と計上した。幼稚園部分の補助金は、国の都合でつかない場合も考えられるので、具体的になってからお示ししたい。

鈴木（安）委員：プロポーザルは行っているが、それは業者の提案だけである。それで本体工事まで踏み込ませるのは進み過ぎではないかと思う。9 月の一般質問では年内にも見直し内容を提示したいと答弁している。見直し提示がない中で、事業費を変更している。また、検討委員会を立ち上げるというが、本体工事に入っていくのに意味がない。したがって、本体工事は、十分検討して次年度以降にすべきと思う。

近隣小学校の例であるがプロポーザルで始まったが、当初 14 億円であったものが最終 28 億円になったという。建設にあたっては慎重に対応すべきである。

町長：検討する。

割貝委員：子育て若者住宅であるが、末広町の分譲ということであるが、当初は 22 戸の賃貸と言っていた。

まち整備課長：賃貸の計画であったが、町内の住宅需要はあると見込み、分譲に変更した。22 区画ぐらいはできると考えるが、景観の統一という考えから建売も検討したい。

割貝委員：若者は自分好みの住宅を望んでいる。この判断は良いと思う。目標は若者定住である。他の自治体は固定資産税免除など優遇がある。売値を安くするとか考えているのか。

まち整備課長：他の事例は承知している。今後検討していきたい。

鈴木（安）委員：農の雇用事業は、国県でやっており自分も参加している。非農家の方が農家で働くというが、どのような受け入れ農家を想定しどのくらい見込んでいるのか。ハウスも立てるというが、現在やっているのは借り手がなくて町がやっている状況、検証なしになぜまた同じことを繰り返すのか。目的を逸脱しないようにすべきである。事業費の根拠は。

まち振興課長：年金受給年齢引き上げに伴い、所得確保など非農家の雇用確保を考えている。農家の高齢化担い手不足を補う場となるのではないかと考える。ハウスについては指摘のとおりであるが、現在協力隊、道の駅の生産団体などが利用している。また、体験事業の受け入れ農家もある。町所有の農地の有効利用と道の駅の冬場の品不足に対応するため周年型のハウスとそれを運営する法人の組織化が必要と思う。協力隊の定住も検討している。

鈴木（安）委員：受け入れ農家はあるのか。何戸想定しているのか。法人は。

まち振興課長：道の駅、協力隊などが行う事業を考えている。

鈴木（安）委員：協力隊は別に予算化している。おかしい。何戸想定しているのか。

まち振興課長：10戸程度はその法人に参加してほしい。

鈴木（安）委員：農の雇用創出というのが全然つながっていないのではないかと。受け入れもない中で1,500万円もの予算を認めるとは無理な話である。

まち振興課長：1,500万円の内訳は、賃金、需用費に600万円近く、ハウス設置に600万円である。職員を雇用した部分でその雇用ができる体制づくりをする。農業法人にこのお金が行くわけではない。

吉田（克）委員：待機児童解消のため早急に対応すると言っていたがどのような計画になっているのか。

町長：12月補正で計上予定である。

吉田（克）委員：工業団地造成事業の場所、補助金など財源は考えないのか。この計画全体をみても単独事業が多い。補助事業など探せばあるのではないかと。

まち振興課長：工業団地近隣でできないか検討している。補助事業は今のところない。誘致できる土地がないので検討していくことで計上した。これから検討していく。

鈴木（茂）委員：振興計画に載っていないものは予算化できないというがどうなのか。

総務課長：振興計画に基づいて予算化される。近況の場合などはこの限りでない。

鈴木（茂）委員：待機児童解消のため幼稚園で3年保育を行うとしていたが、子ども園ができるまではどうするのか。

健康福祉課長：こども園は平成30年度完成予定である。その間は、12月補正で待機児童解消のため保育園の敷地の中に別棟を建てる計画をしている。

鈴木（茂）委員：木野反分館の面積は広すぎないか。大蔵では95㎡で和室はない。今は、和室は使うとことは少ない。もっと狭くてよいと思うが。

公民館長：地元建設委員会と打ち合わせを行い決定した。和室の要望も上がっている。

小峰委員：農業集落排水施設維持管理事業の財源内訳のその他は

生活環境課長：一般会計からの繰入金である。30年度は、台宿地区流末処理場が更新時期になっているため事業費がかさむ。一般財源は、特別会計自体の財源である。

鈴木（安）委員：美術館解体事業とあるが、どのような検討をしたのか。

生涯学習課長：平成15年度国庫補助事業で建てた。年間170万の維持経費が掛かっている。また、利用者は年間約500人である。費用対効果を勘案し解体ということにした。地元との協議はこれからとなる。

鈴木（安）委員：道路整備事業、橋梁改修事業が様々あるが、財源は大丈夫か。先の委員会調査では、補助金の月が悪いと説明があった。

まち整備課長：継続事業は、補助は例年通りつくと見込んでいる。新規については、はっきりした見込みがあるわけではないが計上した。橋梁については、補助が付きやすい状況である。1,2年遅れることはあっても計画は実現できると考えている。できるだけ補助が付くよう要望していく。

（休憩）

委員長：再開する。

鈴木（茂）委員：学力向上対策の人件費 1,100 万円は 2 人分か。

学校教育課長：これから校長になる職なので 1 人分である。

青砥委員：業務用パソコンの単価が高すぎると思うが入札はしているのか。

総務課長：年度初め入札をして購入している。

青砥委員：3、40 万円のパソコンは専門的なものならある。入札が甘いのではないか。

吉田（広）委員：こども園について、プロポーザルは白紙になったのか。

健康福祉課長：プロポーザルは、子ども園と多世代交流センターであったが、子ども園と子育て支援施設になったが、今年度の設計委託をプロポーザルで一番になった企業と契約したいと考えている。

委員長：これで質疑を終わる。

（説明員退席）

委員長：討議を行う。意見はあるか。

（「なし」という人あり。）

委員長：意見がないので討議を終わる。

委員長：まとめを行うが、委員会の意見はないので、本計画を了解したということでよいか。

（異議なし）

委員長：そのように決定する。報告書の作成は委員長一任にしたい。

（異議なし）

委員長：これで、すべての日程を終了した。

副委員長：これで委員会を終了する。

埴町議会委員会条例の第 27 条の規定により署名する。

平成 年 月 日

予算特別委員会

委員長